

長い歴史を歩いてきた上田郷友会を これからも宜しくお願い致します

上田郷友会 代表幹事 滝澤 尚久

上田郷友会が設立されてから今年1月で満130年を迎えました。130年生きることは、寿命が延びた現在でも人が生きられる年月ではありませんが、上田郷友会は多くの方々のご協力を頂いて、明治18年からの長い年月を歩いてまいりました。人は60歳で還暦を迎えると云いますが、上田郷友会も創立60年の時に、

終戦と云う大きな節目を迎えました。戦時中に紙不足で月報が中断しそうになった時代にも、会員の大塚稔さんと云う方が、紙と印刷費を負担すると申し出て頂いたお蔭で、月報を続けられたこともありました。しかし、そのご厚意も太平洋戦争がますます激化する中で、続けて行くことができなくなりました。昭和20年3月10日の本所・深川の上空襲撃で、すべての資料を失い、会員がばらばらになって消息がほとんど取れなくなつたからです。しかし、終戦直後の昭和20年秋には、消息の取れた方々が上田で集まって、月例会の再開を話し合つて居ます。そして、翌年4月には月例会を東京で開き、会員名簿を発行しました。

終戦後、いち早く再出発した上田郷友会は、それから70年間、

社会の多くの変遷にさらされながら、役員及び会員の方々の熱意のお蔭で、日本で最も古い郷友会として現在でも足跡を着実に進めて居ります事は、感謝に堪えません。

私は80歳を超えてから、歳を忘れるために、水前寺清子の『三百六十五歩のマーチ』を繰り返すのです。これから見つめて、幸せを求めて歩く人生が、何歳になつても必要だと思つて居ます。そして、「幸せを取り逃がしたことを後で気が付くことがあつても、後悔せずに将来を見つめて生きよう」と云うこの歌詞が好きだからです。私たちが過去の事実である歴史を学ぶのも、それを将来に役立てるためなのです。

一日一歩なら、明治18年から満130年で、閏年も計算に入れますと、5万7千483歩になります。この偉大な足跡を歴史に遺して、上田郷友会はこれからも歩んでゆくのです。今後とも、皆さんにこの会を愛して戴いて、そのお力添えで進んで行きたいと思ひます。

上田郷友会の将来を、くれぐれも宜しくお願い申し上げます。